

# MSP (Mobility Smart Passport) 構想

ヒトとモビリティ、その他をつなぐデータ連携の考え方

2023.6.28

一般社団法人 日本自動車工業会 デジタルタスクフォース

1. MSP構想の概要

構想の全体像

2. 現在の検討状況

ユースケースや具体実証企画

3. 今後の拡張について

官民様々な取組と連携していく  
ための余白と奥行き

4. 最後に

継続的に意見交換していきたい点

## 1. MSP構想の概要

2. 現在の検討状況

3. 今後の拡張について

4. 最後に

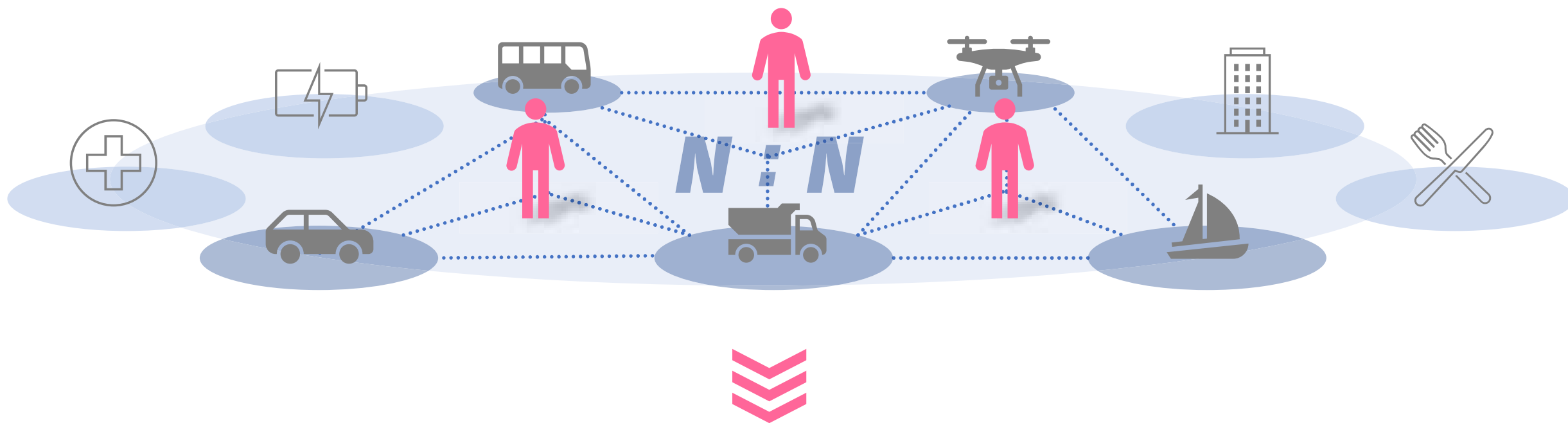
## 構想の全体像

ユースケースや具体実証企画

官民様々な取組と連携していく  
ための余白と奥行き

継続的に意見交換していきたい点

多様化・複雑化する「自動車・モビリティ」と「個人」の関係性



「ヒト」を基軸にN:Nで多様なモノ・コトを繋ぎ合うことで  
より利活用実態に近いデータ連携基盤を

「ヒト」を起点にした自動車産業発のデータ連携基盤

# MSP構想

(Mobility Smart Passport)

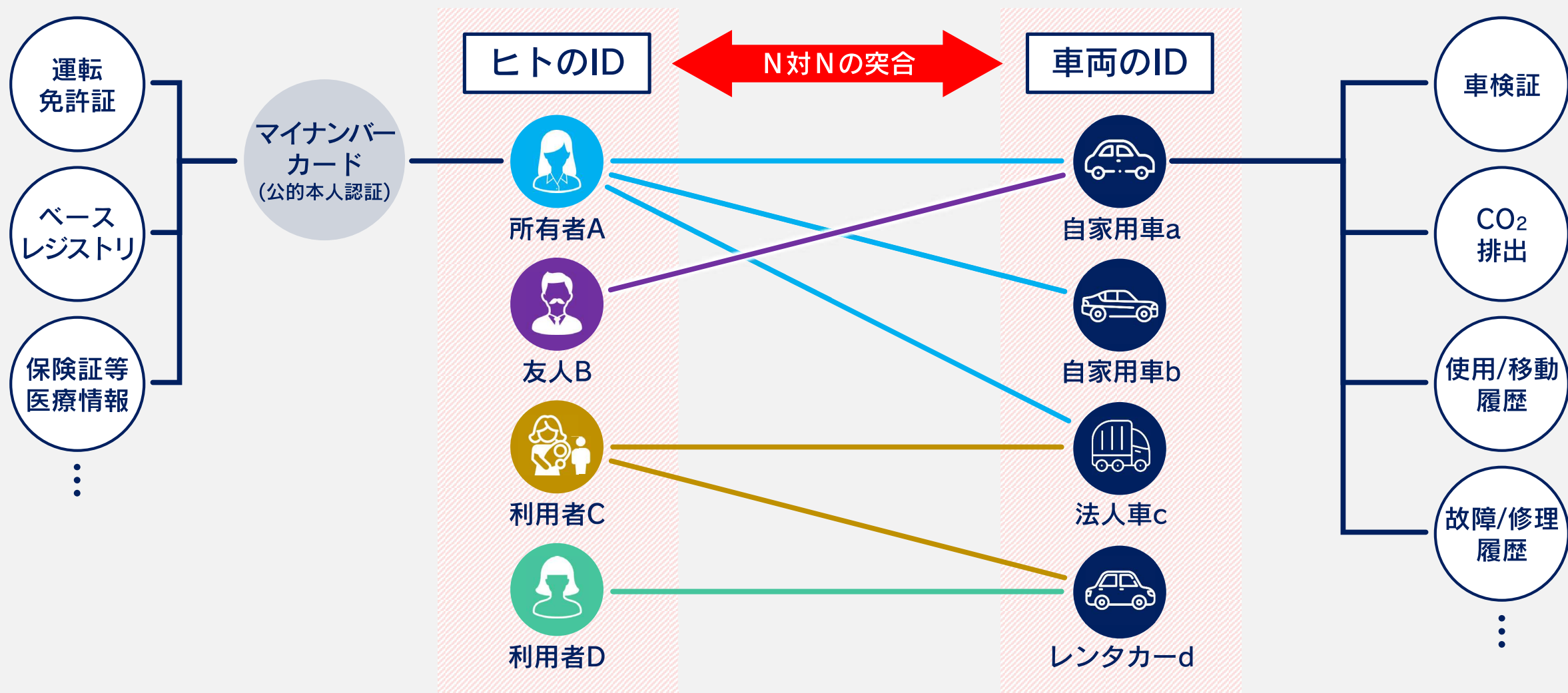


MNC（マイナンバーカード）と免許証の一体化を契機に、  
真正性の高い公的個人認証を基盤としながら、  
ヒトのIDとクルマのIDに紐づくデータをつなげることで、  
官民、民間事業者同士の相互のデータ流通を可能にする  
自動車産業発のデータ連携基盤

ヒトのデータと車のデータを掛け合わせ、人視点でデータの利活用の範囲を検討していく必要がある

	データ提供に関する ユーザー視点	具体的なデータ例
ビジネスとして 各社が競い合い 共有しない領域	【基本は開示しない】 利用サービス以外の流用は 控えたい個人情報	・ 商品購入履歴 ・ サービス利用履歴 等
各事業者が互いに 連携しながら 取り組む領域	【その都度本人同意】 サービス享受のため、自己 主権的にデータ提供	・ 整備履歴/故障履歴 ・ 事故時のドラレコ映像 ・ 既往歴/処方歴等
公共のために、 社会全体に 広く開放する領域	【予めの本人同意】 公共のために提供してもい いと思える（統計情報）	・ CO2排出量 ・ 交通の混雑状況

ヒトのIDとクルマのIDをN対Nでつなげて、様々なデータの統合や利活用を行う



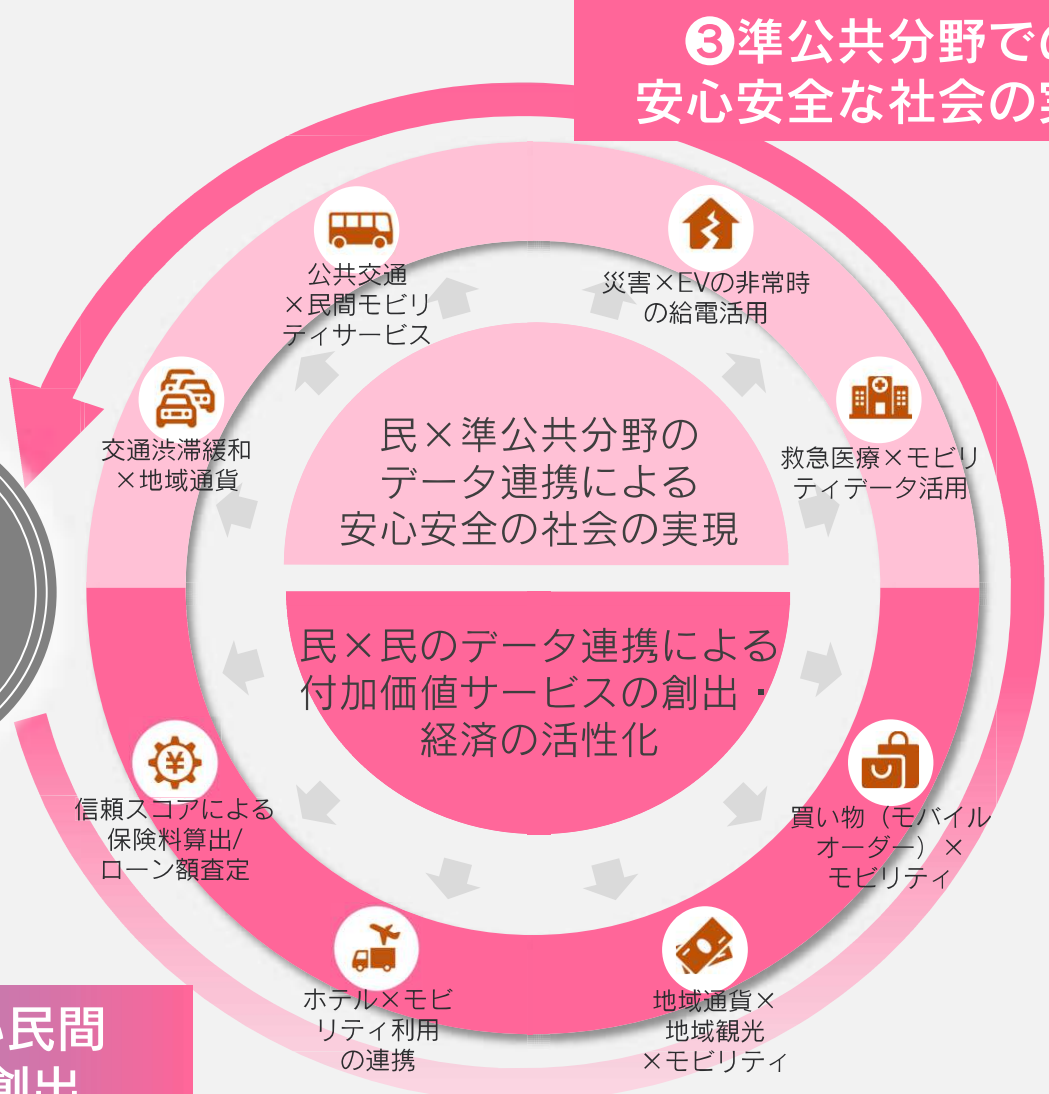
①様々な認証や手続きの社会コスト軽減 ②利便性の高い民間サービスの創出 ③準公共分野での安心安全な社会の実現につなげていく。

## ① 様々な官民の認証や手続きの社会コスト軽減



マイナンバーカードを利用した認証基盤 × MSP構想

## ② 利便性の高い民間の新サービス創出



## ③ 準公共分野での安心安全な社会の実現



1. MSP構想の概要

構想の全体像

2. 現在の検討状況

ユースケースや具体実証企画

3. 今後の拡張について

官民様々な取組と連携していく  
ための余白と奥行き

4. 最後に

継続的に意見交換していきたい点

## 背景

自工会にて「デジタルタスクフォース」が設立され、2022年1月より活動開始。

## 目的

モビリティ産業全体で未来のデジタル社会づくりを加速させ、  
業界におけるDX課題を共通化することで、  
国+地域+企業+個人が連携することにより、新しい価値を提供できる体制を整える。  
まずはマイナンバーカードと運転免許証の一体化を契機として、  
購入や保有、利用体験の簡便化/効率化をはじめとした、様々な社会課題の解決を目指す。

## 活動状況

複数のユースケースを洗い出し、優先順位をつけながら実証を計画中。  
実証を通じて、「データモデル・連携方法」等の標準仕様やルール策定に向けた  
課題を明確化し、デジタル連携基盤実装への道筋を導出する。

- 2023年度は「構想から実証へ」
- 複数のユースケースを検討しながら具体実証を計画中

No.	タイトル	概要
①	自動車購入時諸手続きのデジタル化	自動車を購入する際に必要な各種手続きがすべてデジタル上で完結し、自動化/簡略化されることで、消費者および販売店負荷を軽減する
②	マイカー/電車等の公共交通機関/レンタカーのシームレス利用	様々な情報をシームレスに繋げ、一元管理できることで、負担を減らせるとともに、リアルタイムな提案がなされることで、感動的かつ快適な移動を創り出す
③	トラックドライバーの安全運転評価	物流を支えるトラックドライバーの安全な運転が可視化され、企業とドライバー双方が評価される仕組みが作れることで、物流業界の様々な課題解決に繋がられる。
④	交通事故救急搬送時の医療処置の迅速化・高度化	事故に遭った際、基礎疾患や既往歴等のデータが即座に提供できることで医療処置対応の迅速化と高度化が見込める
⑤	危険運転検知&お知らせ	高齢者が危険運転の検知した際、それが家族に通知され、注意喚起できるようになり、逆に安全運転をしている高齢者であれば、保険料の優遇を得られるようになる
⑥	代行ドライバーサービス	高齢者が自ら運転することなく、所有する車での移動が可能となり、その結果、税金や保険の優遇にもつながる
⑦	(免許返納後)公共交通料金割引手続き簡素化	運転経歴証明書保有者であることが紐づいたマイIDと乗車する公共交通機関のカーIDと紐づけることで公共交通機関を利用する際に自動で割引される
⑧	機械学習によりパーソナライズされた効率的なモビリティサービス	乗車履歴や行動パターンデータを機械学習することにより、乗車時間や場所などより利便性の高い配車サービスを受けられる
⑨	ドライブスルーによるサービス利用・決済	本人と車両の関係を認証することで、ひと手間かかる部分を省略し、MSPによる圧倒的な利便性を享受する
⑩	本人権限を付与したモビリティによる本人非介在のサービス利用	自身の権限をデジタル上でモビリティ等に付与することで対面確認を必要とするサービスでも本人が立ち会うことなくサービスを享受できる

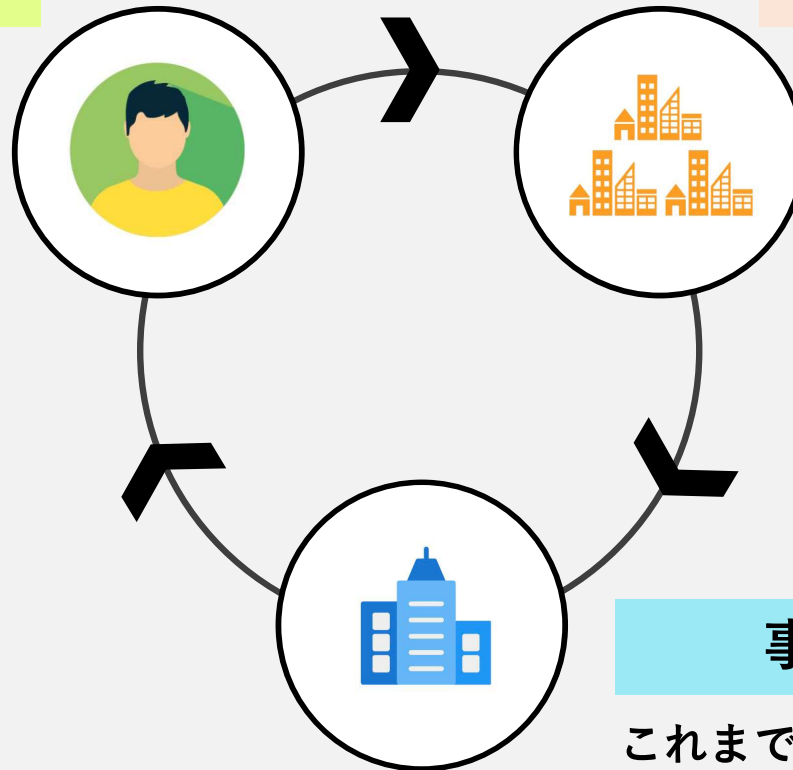
様々なユースケースを実現することで、生活者・事業者・地域それぞれにとっての価値を生み出していく。  
参考例としていくつかのユースケースをご紹介します。

様々な手続きの  
スマート化

データ連携による  
利便性の高い  
サービスの享受

## 生活者

様々な手続きを  
スマート化し  
より利便性の高い  
サービスを楽しむ



## 地域/社会

新たな人流の創出や  
経済活性化  
地域交通のリデザイン

新たな人の流れを  
生み出し  
地域経済への貢献

公共交通の含めた  
地域交通の  
リデザイン

## 事業者

これまで人が介在した  
手続きを削減・  
データ連携による  
業界の透明性担保

様々なサービスの  
手続きコスト  
の軽減

データ連携による  
物流分野の  
見える化

## 地域の既存の公共機関とも連携しながら地域における移動のリデザインのトライアルを検討中

### 実証目的

- 実証を通じて、デジタルIDや、コネクティッドデータの利活用、およびOEM・産業を跨いだデータ連携基盤のあるべき姿、標準化への道筋を導出する。

### 企画(案)

ドライバーとトラックの紐づけ  
分析評価・インセンティブ付与→環境改善

モビリティハブ×マルチモーダル  
地域周遊促進による経済価値の創出

地域交通のリ・デザイン  
共助型のカーシェアリングサービス

### 企画概要

トラックドライバーの労働環境改善  
安全で健康的なお仕事にして人手不足を解消。

地域経済活性化  
訪れやすい。周遊しやすい。だから地域が潤う。

交通弱者ケア・暮らしの質向上  
住みやすい町、住みたい町、住み続けたい町に。

トラックとドライバーを紐づけた運転状況の可視化。

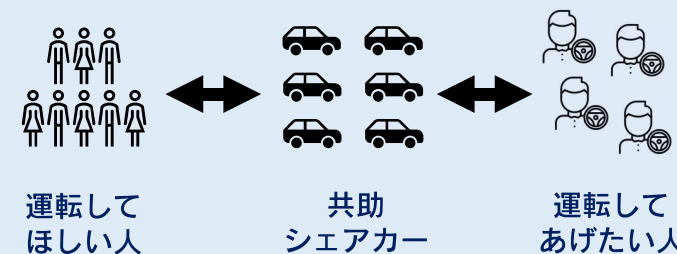
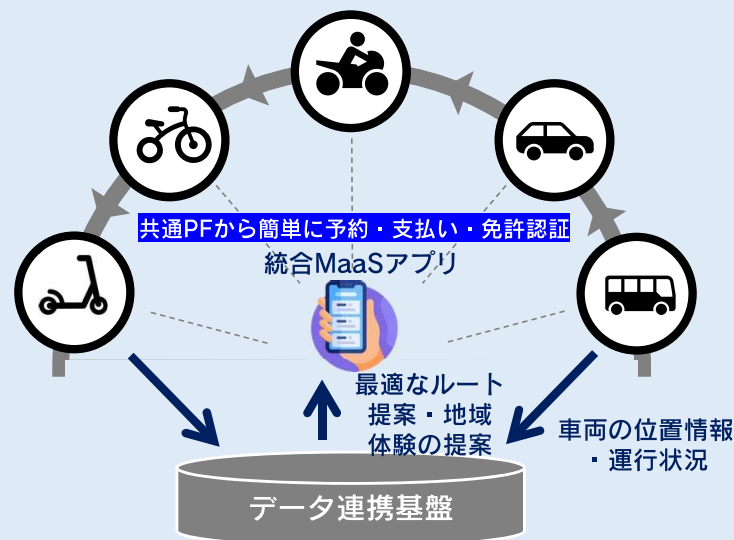
色々な移動手段やサービスをシームレスに利用できる。

誰も移動を我慢しなくていい、地域交通システム。



インセンティブの付与  
(→0時待ち問題等の解決)

運転状態の把握  
(→ドライバーの健康状態管理)



※CtoC型で地方のドライバー不足に貢献していけないか制度的な可能性を含め検討

マイナンバーカードと運転免許証の一体化の認証方法やMSP構想だからこそ実現できるユースケースを具体化して検討中

<b>概要</b>	<p>【ユースケース①】 レンタカー予約～ 利用までの手続き</p> 	<p>【ユースケース②】 小型モビリティ の利用</p> 	<p>【ユースケース③】 フライト情報を活用した免税 手続き簡便化・空港から ホテルへの荷物送付</p> 	<p>【ユースケース④】 渋滞回避行動を促進 する移動インセン ティブ</p> 	<p>【ユースケース⑤】 レンタカー利用者の 安全運転スコア 引継ぎ</p> 	
<b>仕組み</b>	<p>運転免許と一体化したMNCによるスマートな認証</p>		<p>データ連携基盤による フライト情報等の連携</p>		<p>車両の位置情報を ヒトのIDに紐付け インセンティブ付与</p>	<p>クルマのIDに紐づく運転 スコアをヒトのIDと 紐付け個人のスコア化</p>
<b>課題</b>	<p>事業者・ユーザー双方の<b>手続きの負担</b></p> 			<p>地域での <b>渋滞発生</b></p> 	<p>事業者ごとの<b>安全 運転スコアの断絶</b></p> 	
<b>意義</b>	<p>①MNCと免許証一体化の際の真正性の高い認証基盤の確立</p> <p>②ヒトのIDの範囲での民-民のデータ連携の実証</p> <p>③ヒトのIDとクルマのIDのカップリングによる実証</p>					

# 対面での 実書類対応

予約時の4情報の入力

店頭での免許証の提示/確認  
(繁忙期は行列ができる)

# スムーズな 利用手続き

予約時にデジタルパスで  
即時に4情報連携や免許証認証



# 事業者ごとの 煩雑な登録作業

予約時の4情報の入力

免許証の撮影/確認 (数時間待つ)



# スムーズな モビリティ利用

予約時にデジタルパスで  
即時に4情報連携や免許証認証





事業者ごとの  
データ連携が  
行われないこと  
による不便



あらゆる  
サービス間での  
スムーズな  
情報連携




特定のルートに  
人が集中する  
ことによる渋滞



インセンティブ  
を付与し  
迂回ルート提示  
・渋滞回避



別々の車で  
運転した際の  
運転履歴が  
人に蓄積しない



別々の車で運転した  
運転履歴を元に  
ドライバーの  
安全運転を評価できる

1. MSP構想の概要

構想の全体像

2. 現在の検討状況

ユースケースや具体実証企画

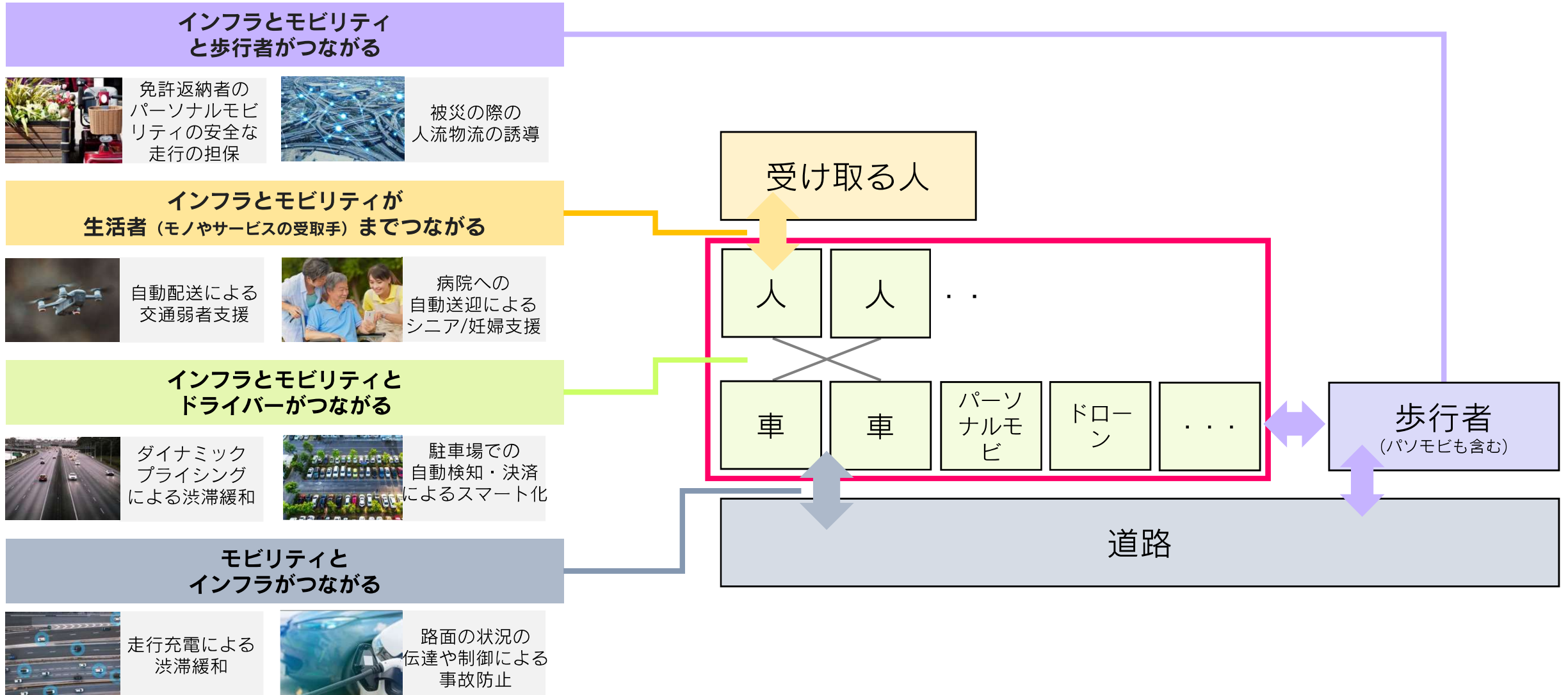
3. 今後の拡張について

官民様々な取組と連携していく  
ための余白と奥行き

4. 最後に

継続的に意見交換していきたい点

今後益々「モビリティ」の範囲が広がっていくため、自動車だけでなく、多様なモビリティ（パーソナルモビリティ/ドローン等）に拡張していきます。また「デジタルライフライン全国総合整備計画」とも連動しながら、インフラ、ドライバー、歩行者までつなげていくことを見据えています。



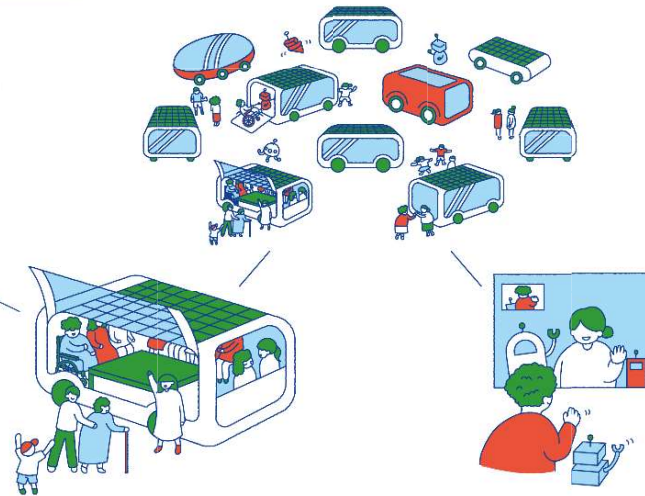
## 2050年の世界観

社会の安全・安心  
に貢献する



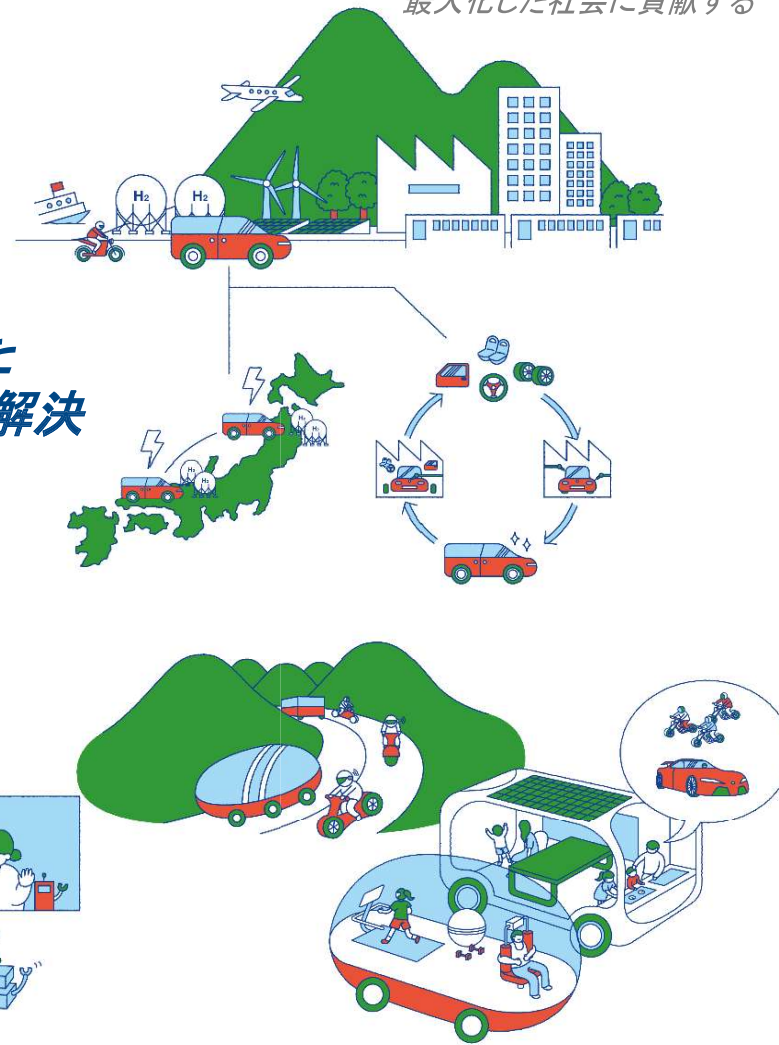
ヒト・モノの移動に加え、  
社会の効率性最大化に貢献する

## モビリティを活用した 新たな価値創造・課題解決



ヒト・モノ・コト全てが自由に移動でき、  
社会とつながる喜びを提供する

環境負荷低減・エネルギー効率  
最大化した社会に貢献する



感動的な“モビリティ”体験を届け続ける

1. MSP構想の概要

構想の全体像

2. 現在の検討状況

ユースケースや具体実証企画

3. 今後の拡張について

官民様々な取組と連携していく  
ための余白と奥行き

4. 最後に

継続的に意見交換していきたい点

## モビリティ・ロードマップと連携を強めながら、MSP構想を推進していく

- ① 自動車業界のDX化による社会コストの削減及び付加価値の創出を図るため、MSP構想の早期実装に向けた取組みを進める。具体的には、**本年度中に実証実験を実施し、販売店やレンタカー会社など自動車産業での利用を念頭に置いたアーキテクチャの設計や更なるユースケースの充実等を進める。**
- ② この際、**自動車のみならず多種多様なモビリティでスマート化が世界各国でめまぐるしく進んでいることに鑑み、自動車以外のモビリティでの将来的な活用や道路やスマートシティなどモビリティを支えるインフラとの連携も視野に入れながら、その拡張性に留意する。**
- ③ 今後、民間各社がDXを推進するに際しては、**業界を跨ぐデータ連携基盤などアーキテクチャの設計の巧拙が、個社のビジネスに加えて社会経済の健全な発展の成否を握ることになることから、政府の主導により官民の役割分担を明確化するロードマップを策定を進めていくことは適切と考える。**

普及に際しては、政府の基準・標準策定機能の重要性が増大していくことから、**「デジタル重点計画2023」**において検討が進んでいる、eID(electronic id)領域やIPAの取り組み領域についても、ぜひ定期的に意見交換をさせていただきたい。



